

主体的に考え進んで行動することができる児童の育成について

目的

児童自らが考え活動することを通して、子ども一人ひとりが自ら考え行動する力（主体性）と、積極的に他者とかがわりよい関係を築く力（社会性）を身につける。

内容

● あったか言葉で相手と心を通わす

毎日の生活を気持ちよく送るために、お互いに相手を思いやることが大切になってくる。がんばる友だちを応援したり、困っている友だちを助ける気持ちを表したり、失敗した友だちを励ますために、相手の心があたたかくなるような言葉かけをして、思いやる心を培い、言葉を受けた子どもにも存在感を持たせることができる。

● 人権キャラクターによる人権意識の向上

「人権ジャー（赤・青・黄・ピンク・緑）」
相手の気持ちを考えて接することの大切さを、子ども自身が表現する。人権ミニ集会で、思いやりの心の大切さを寸劇で表したり、人権週間には校舎内や運動場を見回り、低学年の遊び相手をするなどの活動を行っている。



● スマイルあいさつ運動



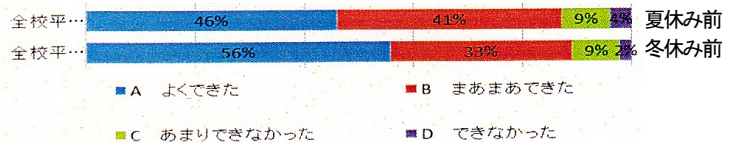
【児童会を中心にしたあいさつ運動】



【3年生によるあいさつ運動】

正門や校舎内で、進んであいさつを行っている。個々の児童が誘い合って全校生が明るいあいさつができるように活動がんばっている。また、下のグラフのように子どもたちの自己評価結果から、9割の児童があいさつができる目標を達成できている。

重点評価項目
あいさつの啓発と定着
目標
あいさつができていると自己評価する子を90%にする。



● 清掃ボランティア

6年生を中心に、美しい学校をつくるために、登校後、自主的に校内清掃に取り組んでいる。場所を分担して、すみずみまで心を込めていねいに取り組んでいる。



● ありがとうの日（6年生）

地域の方々へありがとうを届ける活動を持つ。カードにお礼の手紙を書き、「防災防犯ワークショップ」の折に来てもらった地域の方々へ渡し、地域とのつながりを強めている。

成果

どの活動も継続して取り組んでいるため、大半の児童が活動に進んで参加することができる。自分だけで取り組んでいた児童が声をかけ合い集中してできている。また、あいさつに関しては相手の目を見てはっきりとできるようになった。また、校内だけでなく地域の中でも礼儀正しくあいさつのできる児童が増えてきており、社会性の育成という点においても、活動の成果が表れてきていると感じる。